Japan Heart

2016 Annual Report

年次報告書

2016.4.1～2017.3.31

photograph by Junji Naito

人こそ未来なり
若い力が活きる組織であるために

若い医師に手術をさせ始めるとあっという間に上手くなっていく。このまま成長し続ければ、たいしたものになるだろうと思うことがよくある。それは特別な才能を感じさせる人間に限ったことではなくて、おおよそ私の目の前に現れる人間すべてに言える気がする。

しかし、どうしたことか、日本でも活動国でも若くして大物の片鱗を感じさせる医師に会うのは稀だ。なぜなのか？

日本も活動国でも、まず若い医師に積極的に手術のチャンスを与えはしない。見るだけ、少し触るだけ、一年に数件執刀させてもらえるだけ。どんな一流の野球選手でもバッターボックスに立たせてもらえなければヒットを打てるはずもない。これでは、才能など発揮されるはずがない。

このような事が、ジャパンハートでも起こっているのではないか？　私はもっと早く、もっと大きく成長させたいと思っていた。が、理想ほどの成長を遂げていないというのが正直な気持ちだ。

何がボトルネックになっているのだろうか？

もしかしたら私は才能ある若者をバッターボックスに立たせていなかったのかもしれない。もし、彼らをバッターボックスに立たせてみたら、私が見ていた未来よりももっとすごい未来を見て、達成するのかもしれない。

そういう若者たちの予備軍をどんどん生み出していく必要もある。

人こそ未来なり、それを育てるのが自分の役目。それが10年後の組織強化につながり、そして社会の利益は拡大していく。

きっとその役目は、私しかできない。

特定非営利活動法人ジャパンハート　最高顧問 / ファウンダー

吉岡秀人

photograph by Junji Naito

ジャパンハートのあゆみ

1995
吉岡秀人・ミャンマーで医療活動を開始

2004
国際医療ボランティア団体ジャパンハート設立
《ミャンマー》ヤンゴンオフィス開設
《ミャンマー》ワッチェ慈善病院で医療支援活動を開始
国際長期研修開始（現・国際看護長期研修）

2008
《日本》東京事務局開設
《カンボジア》プノンペンオフィス開設
《ミャンマー》サイクロン緊急救援・孤児支援開始
《ミャンマー》マンダレー寺小屋保健室開設
《日本》僻地離島支援開始
心の医療事業開始（現・すまいるスマイルプロジェクト）
自由都市・堺　平和貢献賞　奨励賞受賞
NPO 法人格取得

2009
《カンボジア》保健活動開始
《カンボジア》医療支援活動を開始

2010
《ミャンマー》養育施設 DreamTrain 開設
《ミャンマー》視覚障がい者自立支援プロジェクト開始
医療マッサージ訓練センター開設
大山健康財団賞受賞（吉岡秀人）

2011
《ミャンマー》里親支援制度開設
《日本》東日本大震災緊急医療支援、復興支援開始
《カンボジア》夢の架け橋プロジェクト開始
「認定 NPO 法人」として認定を受ける
宮城県石巻「ジャパンハートこども・内科クリニック」開設

2012
大山健康財団賞受賞
ニーニーちゃんプロジェクト開始
《ラオス》ヴィエンチャンオフィス開設

2013
《ラオス》医療支援活動を開始
《タイ》バンコクオフィス開設
《フィリピン》台風30号緊急医療支援

2014
《タイ・インドネシア》国際緊急救援事業開始
《インドネシア》社会省テクニカルアグリーメント締結
外務大臣表彰
沖縄平和賞受賞
「明日の象徴」受賞（長谷川彩未）

2015
《ミャンマー》大洪水 緊急支援
《ミャンマー》小児心臓病サポート支援開始
大山健康財団 激励賞受賞（河野朋子）

2016
《日本》熊本地震 緊急支援
《カンボジア》AAMC（ジャパンハート医療センター）開院

これまでの主な TV 出演
2005　テレビ東京
　　　ドキュメンタリー特集「ここにいのちある限り」
2007　TBS「夢の扉」
2009　NHK 教育「ETV 特集～ミャンマーに医療の架け橋を」
　　　毎日放送「情熱大陸」1回目
2010　毎日放送「情熱大陸」2回目
　　　テレビ東京「世界を変える100人の日本人！」
2011　毎日放送「情熱大陸」3回目
2013　NHKBS プレミアム「輝く女」
　　　朝日放送「こんなところに日本人」１回目
2014　テレビ東京「未来世紀ジパング」１回目
　　　内閣府テレビ CM　出演
2015　読売テレビ「グッと！地球便」
2016　朝日放送「こんなところに日本人」２回目
　　　テレビ東京「未来世紀ジパング」２回目
　　　NHK E テレ「先人たちの底力 知恵泉」

次の未来へ 小児医療センター

Asia Alliance Medical Center（ジャパンハート医療センター）

▶命を育む、周産期医療

2016年5月、海外で行う医療活動の主要拠点としてカンボジア・カンダール州に誕生したAsia Alliance Medical Center（AAMC / ジャパンハート医療センター）。この新病院は、子どもから大人まで貧しく医療を受けることができない多くの患者を無償で受け入れ、地域の医療を支えています。また、ここでの活動として特に周産期医療に力を入れてきました。病院には産婦人科医と助産師が常駐し、周辺の医療施設では取り上げられない帝王切開が必要なハイリスク出産などを受け入れ、2016年度は557件の分娩を行い、大切な命を育んできました。その評判は、州外にも広がり、今では遠くから数時間かけてこの病院を訪ねてくる患者も増えています。

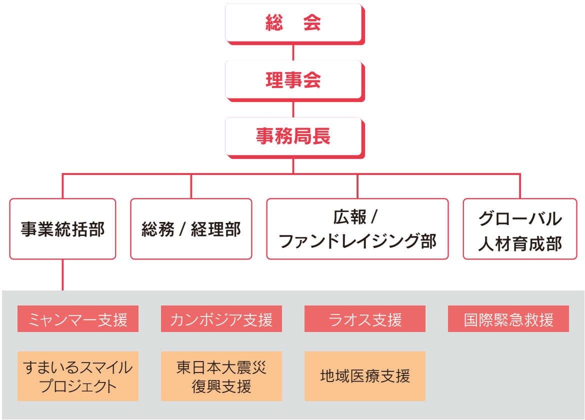
現地人医療者の育成と並行して行われるAAMCでの医療支援活動は、国と地域に根付く医療を目指しながら、これまで治療をあきらめるしかなかった子どもたちの命を救うため、ステップへ進もうとしています。

ジャパンハート新体制で、新たなステージへ

団体設立から13年。新代表として小児科医の吉岡春菜を迎え、国内外の支援拡大と変化し続ける現地のニーズに適した支援活動を実現するために組織体制を新たにしました。

アジアを代表する国際医療NGOと成長すべく、挑戦します。

▶組織図



▶新理事長（代表） 吉岡春菜からのご挨拶

ジャパンハートの活動を応援してくださりありがとうございます。2017年度通常総会を持って理事に就任し、その後の理事会にて理事長に選出されました。どうぞよろしくお願いいたします。

創設者の吉岡秀人は「医療は患者のためにある」「医療の届かないところへ医療を届ける」という原点に常に軸足を定め、団体を設立し各国で活動をして参りました。

組織の次期を担う私たち若い世代は団体の歩みを研究し、そこから多くの事柄を学び、その上に歴史を積み上げていけるよう努力して参ります。どうか末永く応援いただけますと幸いです。

特定非営利活動法人
ジャパンハート 代表　吉岡 春菜

増設

▶小児がん治療にも対応、小児医療センター増設へ

当初の計画にも含まれていた、カンボジアでの小児がん治療。カンボジアには小児がんを診る病院はあるものの、十分な医療設備と人材がないために失われていく命があります。AAMC では、小児がん治療への挑戦を始めるため、2017年秋に小児医療センターの増設に着手します。2018年夏前の稼働を目指し、がん治療を含めた小児医療に必要な医療機器の配備、医療人材の確保、各所との調整を進めていく方針です。

この活動により、小児医療に携わる現地医療者の育成を行い、子どもたちとその家族の人生に寄り添いながら国の医療レベルの向上に貢献したいと考えます。

現地からの VOICE

食道狭窄　Anny さん（20歳）

ジャパンハートのドクターは誠実で心のこもった治療をしてくれました。もし治療を受けれなかったら、私は今生きていないと思うと、表現できる言葉がありません。ありがとう、ありがとう、ただそれだけです。

今までたくさんの人が私をサポートしてくれました。次は私が助けが必要な人をサポートできるようになりたいです。

肘部熱傷瘢痕　Min Thwe Khant くん（9歳）

ずっと腕の火傷の跡を見られるのが恥ずかしかったから、早く治したかったんだ。手術室に入るときは少しドキドキしたけど、お医者さんや看護師さんがずっと話しかけてくれたりしてくれて心強かった。

早く包帯を外して、友達と思いっきり遊びたい！

妊娠高血圧腎症　Thy Douchdy さん（21歳）

妊娠中に血圧が高く、帝王切開になる可能性が高いと言われて、AAMC を紹介されました。手術はすごく不安だったので、安全を考えながら自然分娩にチャレンジしようと言われた時は、本当に嬉しかったです。

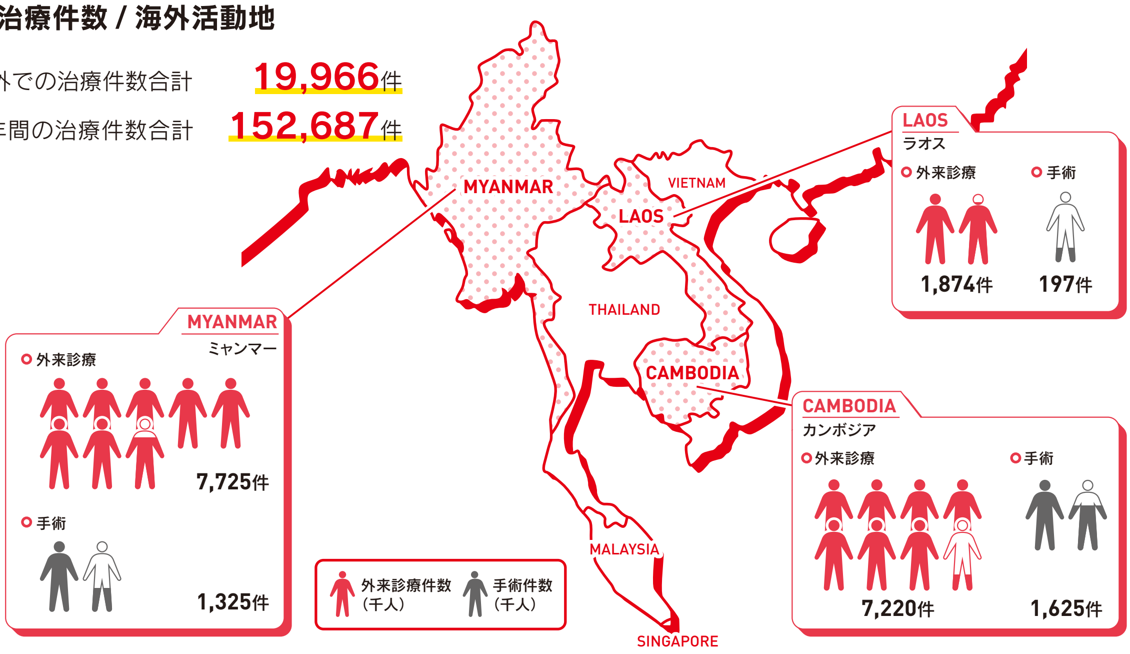
日本の助産師は、腰をさすってくれたり、おっぱいマッサージをしてくれたり、とても優しかったです。自分のように病気の妊婦をこれからも助けてほしいと思います。

2016年度ジャパンハート活動ハイライト

ジャパンハートは2016年度も多くの皆様に支えられ、「医療の届かないところに医療を届ける」活動を行い、医療の分野で活動国に貢献することができました。

▶2016年度治療件数 / 海外活動地

- 2016年度海外での治療件数合計　**19,966件**
- 設立から13年間の治療件数合計　**152,687件**



2016

4月　5月　6月　7月　8月　9月

熊本地震が発生。医療者を派遣し、緊急救援活動を実施した／**日本**

AAMC（ジャパンハート医療センター）開院。海外医療活動の拠点として、周産期を含めた医療活動を開始した／**カンボジア**

テレビ東京「日経スペシャル　未来世紀ジパング～沸騰現場の経済学～」奇跡の医療　カンボジアの医療活動を特集、2回目の出演

7月を皮切りに高校生スタディーツアー、看護師限定スタディーツアーを実施した（年間全8回）

視覚障がい者自立支援全国セミナーを開催した（年間全2回）／**ミャンマー**

小児心臓病サポート事業、生後二か月シャイン君来日治療／**ミャンマー**

（写真提供：産経新聞社）

東日本大震災として心のケア活動を継続／**日本**

養育施設 Dream Train 遠足、生まれて初めて見る海へ／**ミャンマー**

母子保健プロジェクト、ミッチーナ周辺助産所25ヶ所に胎児超音波心音計を寄付した／**ミャンマー**

ヤンゴン子ども病院、マンダレー子ども病院に日本から専門医療チーム招いて手術活動を実施した／**ミャンマー**

少数民族モン族対象、初のモン州手術活動を実施した／**ミャンマー**

2017

10月　11月　12月　1月　2月　3月　4月

事務局長に佐藤抄が就任

NHK E テレ
「先人たちの底力 知恵泉」
吉岡秀人出演

「10万人が待つラオスの貧しい村へドクターカーで医療を届けたい！」クラウドファンディング／**ラオス**

すまいるスマイルプロジェクト第５回招待企画「2016キッザニア東京」に８組29名を招待した／**日本**

レッカナーちゃん来日治療／**カンボジア**

カンボジア

Cambodia

20年に及んだ内戦の爪痕が
今もなお深く残るカンボジア。
知識人の大量虐殺により、
当時残った医者はたった40名だと言われている。
貧しい人々に医療の届かないこの国では、
１歳に満たない子どもが
年間約１万人も亡くなっている。

photograph by Junji Naito

小さな命を救い、若者の熱意をカタチにする。カンボジアの未来を担う医療支援は、ここから始まる。

▶医療活動

皆様の多くのご支援によって、2016年5月に新病院 Asia Alliance Medical Center（ジャパンハート医療センター）が完工、開院しました。

新病院開院によって、従来行ってきた地方の提携病院やヘルスセンターで数日から10日程の診療・手術を繰り返し行う医療活動から、通年での医療活動を展開することが可能となりました。周産期医療を中心に一般外科、内科、小児科など幅広い患者の受け入れを無償で行う新病院での医療活動は評判を呼び、毎日、多くの患者が病院を訪れ、その数は月間1,000人に上ります。現在では、治療を受けた患者が村の人々や親戚を連れて来るなどの信頼も得て、近隣州からも患者が集まり、前年度、団体がカンボジア国内で行った治療件数を大きく上回りました。また、病院内で継続した医療者の育成活動を行えることから、若く経験を必要とする現地の医師、看護師を積極的に雇用し、若い力を伸ばすなど、国の医療レベルの底上げにも貢献しています。同敷地内にある国立病院（ポンネル―病院）とは、１つの医療施設として緊密に連携し、外来患者の診療を協力して行い、周産期部門においては施設を共有しながら、双方の助産師スタッフが同じ場所で働いています。

photograph by Shimo

また、提携する３病院との関係も維持し、計３回の手術活動を実施。さらに新病院から至近距離にある公立病院を提携病院として新たに加え、同病院への技術指導支援も開始しました。

実　績　**診療7,220名　手術1,068件　分娩557件**

活動地　**Asia Alliance Medical Center（ジャパンハート医療センター）バティエ病院、ロカカオン病院 / カンダール州、ペイリアン病院 / プレイベン州、チューンプレイ病院 / コンポンチャム州**

▶医療学生育成活動「夢の懸け橋プロジェクト」

奨学金制度を用いて、貧しくも優秀な学生を対象に就学支援を行う「夢の懸け橋プロジェクト」。2016年度はカンボジア日本友好学園から医学部生２名、看護学部生４名を採用しました。

また、奨学金生のうち１名が大学を卒業し看護師となり、Asia Alliance Medical Center（ジャパンハート医療センター）で２年間の卒後研修をスタートさせました。2017年度の奨学金生は計21名（医学部11名、看護学部10名）。

これからもジャパンハートは「医療者になって、自分の村の人たちを助けたい」という奨学金生たちの夢の応援を続けます。

ミャンマー
Myanmar

都市部の発展が進む、ミャンマー。
しかし、国土のほとんどを占める農村部には
貧しい村々が広がる。
保険制度も整っておらず、貧しい人々は
病院へ行くことを諦めてしまう。
そして国境地域では、貧しさ故に、子どもたちが
たった数万円ほどで人身売買されている。

photograph by Junji Naito

発展と貧困。
変わりゆくミャンマーで求められる支援とは。

▶医療活動

ワッチェ慈善病院では、貧しい人々を対象に、通年で外来診療を行うと共に、月１～２回の手術活動を継続しています。

団体設立時から13年にわたり無償で続けてきたワッチェ慈善病院での治療件数は合計11万８千件。未だ、ミャンマー全土から医療を求めて人々がこの病院を訪れます。

また、高い技術の導入を必要とするミャンマーの主要病院を活動場所として、日本から小児専門科医療チームを招き、小児の医療支援と現地医療者への専門技術指導を行いました。

ヤンゴン子ども病院では肝臓病患児11名の手術、モウラミャイン総合病院では小児外科全般の手術、マンダレー子ども病院では口唇・口蓋裂の手術を患児20名に実施しました。さらに次のステップとして、ミャンマー国内での肝移植の実現を目標に、九州大学病院を受け入れ先としてヤンゴン子ども病院の医師団を招き、肝移植の見学・研修を行いました。

母子保健の分野では、ミャンマー北部カチン州ミッチーナの母子保健状況改善を目指し、周辺の助産所25ヶ所に胎児超音波心音計を寄贈、日本人産婦人科医による母子保健及び心音計の使用方法についてレクチャーを行いました。

実　績　**ワッチェ慈善病院＞診療7,694名　手術1,303件**
専門科医療活動＞診療31名　手術22件

活動地　**ワッチェ慈善病院（ザガイン管区）、マンダレー、モン州ミッチーナ（カチン州）、ヤンゴン（ヤンゴン管区）**

photograph by Shimo

▶小児心臓病サポート

産経新聞社「明美ちゃん基金」協力のもと、前年に続きヤンキン子ども病院で第２～４回目の小児心臓病プロジェクトを実施。それぞれ日本から内科または外科医療チームが来緬。心臓病患児計67名の治療を行うと共に現地医療者への技術指導を行いました。

また、10月にはミャンマーでの手術が困難な完全大血管転位症を患うシャイン君（生後２ヶ月）の治療を日本で行い、幼い大切な命を救うことができました。

▶医療学生育成活動

医学生５名、看護学生７名の奨学金支援を行い、うち２名の看護学生が学校を卒業し、ワッチェ慈善病院で２ヶ月間勤務の後、政府の病院へ。今年もミャンマー医療を支える若者が巣立っていきました。

※本奨学金支援は一般財団法人新倉会の支援で実施しています。

▶視覚障がい者自立支援

７年間続く活動が評価され、ミャンマー社会福祉省の依頼により、国内での医療マッサージ免許制度の整備を行う「資格化推進委員会」の運営準備を開始しました。制度化は、視覚障がい者のマッサージ技術と信頼度の向上につながります。

昨年に引き続き、医療マッサージ職業訓練10ヶ月コースを開講。また、日本人の医療マッサージ専門家を招いた全国セミナー（８月・２月）を実施しました。

▶養育施設 Dream Train

家庭の経済状況の好転等の理由から、30名の施設卒業生を送り出すことができた2016年度、大学進学者も13名に増えました。現在は185名が在籍。企業・団体様の特別支援により観光地や初めての海への宿泊遠足を実施しました。

また自立のための取り組みとして、英語やパソコン教室、日本企業の見学、車の整備・電気配線工事・縫製・看護師等、希望者を募り様々なトレーニングコースを実施しました。

湿度が高いため老朽化が進むシャワールームや生活棟の柵の改修と図書館・PC 棟の建設を行いました。

▶サイクロン孤児支援

2008年、ミャンマー南西部に甚大な被害をもたらしたサイクロンによる孤児を対象に生活・教育・医療面での支援を継続しています。幼い頃に被災して、９年。今は大学生３名、教員育成学校１名、高校生12名、中学生17名、小学生３名と着実に成長と自立への道を歩んでいます。

ラオス

Laos

ラオスは多くの NGO や国家機関が
支援を行っているにも関わらず、
後発開発途上国から脱却できずにいる。
いまだ道路などのインフラも整っておらず、
地方の貧しい人々は
医療にアクセスすることさえ困難。

photograph by Junji Naito

課題が残る山岳部での支援。
継続のために、ジャパンハートができること。

▶医療活動

前年に注力して行った、ラオス最北端の山岳地域ポンサリー県での活動をより効果的に行うため、首都ヴィエンチャンとポンサリー県の中間地点にあたる、ウドムサイ県で活動を開始しました。

ポンサリー県には甲状腺疾患を患う人々が多く、高い医療ニーズがあるにも関わらず、医療チームの派遣には、山岳地域の悪路を進むため、その移動は天候に大きく左右され、大変な時間を要し、チームが疲労する、活動開始が遅れるなどの課題もありました。

この課題解決の一つとして、定期的にウドムサイ県内の病院で活動を実施することで周辺の貧しい村々はもちろん、ウドムサイ県へのアクセスが良いポンサリー県からも患者を誘導し、より多くの人々に医療を届けることが可能と考えました。

2016年度は、ラオス事業開始当初から携わっているビエンチャン市郊外のパークグム郡病院、北部のポンサリー県病院、及び新たに加わったウドムサイ県病院の３箇所にて計11回の手術活動を行いました。また、同３病院とニョットウー郡病院に於いて、計16回の巡回診療を実施しました。

実　績　診療1,874名　手術197件

活動地　ヴィエンチャン特別市　パークグム郡病院、ウドムサイ県病院、ポンサリー県ニョットウー群病院、ポンサリー県病院

▶一次救命措置、ファーストエイドトレーニング

都市化が進むヴィエンチャンでは、交通事故、工場や建築現場での事故が多発しています。しかしながら、そのような事故が起きた際に最重要となる救命措置を学んでいる医療者はとても少なく、多くの命が失われている現状があります。

ジャパンハートではラオスで活動を開始して以来、救命措置技術・知識の普及のため、現地医療従事者や看護学生を中心にトレーニングを提供してきましたが、2016年度からはさらにその対象を大学生などに広げました。

実　績　実施回数　計10回、164名

国際緊急救援（JH iER）

▶熊本地震

2016年４月14日前震、16日本震、各最大震度７を観測した熊本地震が発生。震度５強以上の地震が計12回発生し、九州中部に甚大な被害をもたらしました。家屋42,734棟が全半壊、15万5902棟が一部破損し、続く強い余震に避難者は最多で18万3882人に上りました。

ジャパンハートは発災直後より、現地ニーズ調査を行い、翌週には先遣隊として医療チームを派遣しました。700人が集まる避難所である力合西小学校（熊本市南区）を拠点に、被害アセスメントを展開。調査結果をもとに、20日間にわたって全６陣の医療チームを派遣し、避難所のべ33ヶ所での巡回診療、社会福祉避難所での医療ニーズサポートを実施しました。体調不良や発熱を訴える避難者の方々を診察する中、被災から10日後には、特別な医療行為を必要とするようなニーズは少なくなる一方、精神状態が不安定なお子さんや高齢者の方も見られたことから、医療チームは地域の巡回診療を続けながら、不安を抱え生活を送る方々を見守り、支える活動を行いました。

緊急救援終了後には、定期的に被災地を訪れ、被災地域の現状調査や活動に携わった支援団体との意見交換などを行い、日本国内で行う緊急救援活動のスキーム強化を行いました。

期　間　2016年４月20〜５月９日
活動場所　熊本県南阿蘇村、熊本市南区

▶ ASEAN 各国との連携

インドネシア＞国内での INGO 登録について保健省と最終協議を実施。現地 NGO と緊急時対応の盤を協議。

フィリピン＞保健省及び現地 NGO との MOU（覚書）締結に向けて進行。

ミャンマー＞現地連携団体と緊急時の協力関係について合意。

その他にも、**タイ、カンボジア、ラオス**で協力関係の維持を行いました。実際の災害リスクの高い国に関しては、支援

実施のための準備強化を行いました。

▶チーム強化とスキーム作り

緊急救援における活動強化を行うため海外各活動地・日本国内スタッフに対して研修を実施。

また、海外で活動を行う看護師に、災害基礎知識研修を実施しました。

今後、緊急時の外部ボランティア受け入れを積極的に行うため、「ジャパンハート災害ボランティア」登録制度を設けました。

登録には定期的な研修受講を必須としており、チームのクオリティーを維持すると共に災害現場で活躍できる人材の育成を行います。

○東日本大震災復興支援

▶心のケア

「子どもたちのこころとからだの健全を図る」事を目的として、心のケアを実施。

日本 EMDR 学会人道支援活動所属の臨床心理士・看護師にて２ヶ月に一度宮城県気仙沼市内の幼稚園・保育所への訪問を行い、個別カウンセリングと職員への相談に対応しました。12月には気仙沼市内の子どもに関わる教員68名を対象に「気になる子どもの関わり方」をテーマとして講演を行いました。

また、未就学児の集まる「子どもの森」で小児科医による育児相談、階上仮設住宅での健康相談を実施。

その他、アロマテラピー講座の開催など、親子のスキンシップや子どもの良好な心身の発育を目的としたイベントを提供しました。

▶医療者の派遣

2016年度は計６名の看護師を各６ヶ月～１年にわたり、女川地域医療センターと気仙沼市立本吉病院へ派遣を行いました。医療人材が不足し、限られた人数の中でも地域の方々に良い医療を提供するため、活動を継続しています。

震災後に診療所が閉鎖されながらも、慣れ親しんだ島に住み続ける島民の方々のために、女川医療センターでは船で離島へ出向く巡回診療が今も継続されており、ジャパンハートの看護師もこの活動に参加しています。

すまいるスマイルプロジェクト

楽しい思い出を、病気と闘う勇気に変える

小児がんは国内だけで年間約2,500人発症しています。治療は副作用が強く、長期にわたり、子どもも家族もつらい時間を過ごさなくてはなりません。ジャパンハートでは疾患や治療の影響により移動に不安のある子どもと家族に、旅行や外出先で安心してかけがえのない時間を過ごしてもらうため、医療者が付き添い、旅行・外出と思い出づくりのサポートを行っています。

2016年度は29組のご家族をサポートしました。

個別サポートと今後の課題

個別サポートを２件実施。東京ディズニーランドへの家族旅行のサポートや、病室から出れない飛行機が大好きなお子さんのために、航空会社にご協力いただき、客室乗務員お二方による病室内での飛行機搭乗体験を実施しました。

他にも多数、個別サポートへの問い合わせをいただきましたが、準備を進めている間に病状が悪化し外出ができなくなってしまう例、すでに外出が難しく諦めざるをえない例などもありました。あともう少し早く伝えられていたら。もう少し早く連絡をくれていたら…。

今後は、プロジェクトをご紹介下さる医療機関へ、より早い段階でご案内いただけるよう、協力を仰いでまいります。

招待企画！

３年目となる「キッザニア」へのご家族招待企画をキッザニア甲子園、キッザニア東京で開催。医療者、一般、企業の社員の方など多くのボランティアの方々にご協力いただき、多くのお子さまとご家族の笑顔であふれるイベントになりました。

また、ジョンソンエンドジョンソン株式会社のご協力のもと、お医者さん体験をするキッズセミナーを開催。

つらい治療を体験してきた子どもたちが挑戦する「お医者さんの治療」。これからも小児がんの子どもたちが「大切な思い出と経験」ができるよう、お手伝いしていきます。

ご家族からのお便り

「キッズセミナー〜お医者さん体験」に参加したお母さまからのメッセージ

2016年、年末に退院してから９ヶ月、初めて姉妹そろってイベントに参加しました。

申し込んではみたものの、入院中には一年間で３度の手術をしたので怖がってしまうのではないか、と当日まで不安でした。

行ってみると、二人とも、一つ一つのブースで楽しく学び、さらに興味もわき、次回もまた参加したいと言うほど満喫させていただきました。

まだ制限のある生活の中で、今回のイベントは本当に貴重な経験になりました。ありがとうございました。

国内地域医療支援

▶日本の未来を支える医療人の育成

日本国内の僻地・離島の医療者不足が深刻な地域への人材支援、そして、その地で活動するジャパンハート所属の医療者の育成を目的として、これまで９年間活動を行ってきました。僻地、離島、被災地の６ヶ所の病院を活動地として、昨年度は47名を派遣しました。これまでのべ202名の医療者が国内の地域医療支援に参加しています。

患者、家族とその地域の人々が密接に関わり合う環境で働く医療者たちは「地域の人たちは、私たちが守る」という責任感に溢れています。そしてそこでは、「人を総合的に診る力」が必要とされます。疾患を問わず対応すること、限られた環境の中で状況を把握し迅速に判断すること、患者とその家族の想いに寄り添うこと。

マンパワーの補てんとしてだけでなく、これらの人を総合的に診る力を高めたいという意識を持つ医療者を派遣することで、病院側はモティベーションの高い人材を確保でき、ジャパンハートは日本の未来を支える優れた能力を持った医療者を育成する「協働」が叶う仕組みです。

今後、さらに国内の活動病院を増やし、この活動が地域医療への関わり方を変えるような大きなネットワークに発展できるよう、チャレンジを続けます。

活動場所 **島根県隠岐の島・長崎県上五島・長崎県対馬・山梨県牧丘町・宮城県女川町・気仙沼市本吉町**

VOICE | JAPAN　**「今後は、わたしが。」**

アドバンスドナース　**三浦 エリ**さん

上五島での研修、女川での活動を終えて思うことは、その土地でよそ者だった私を、いつも受け入れてくれた人たちがいて、その人たちの存在が私を一人の「看護師」にしてくれたこと。

私もそのような人でありたいということです。

周囲にたくさん迷惑をかけながら活動してきましたが、いつも温かい人に助けられ、なんとかやってくることができました。

今度は私が、新しい風を受け入れる人間でありたいと思っています。

photograph by Shimo

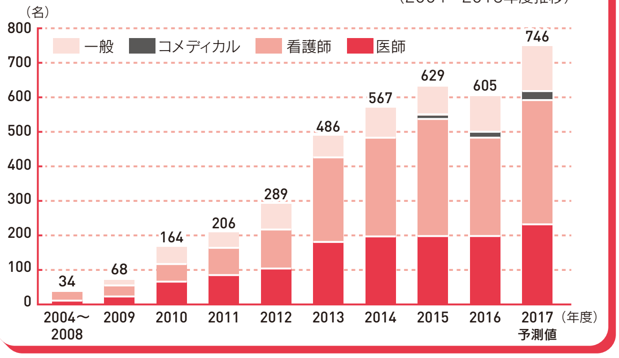
国際医療短期ボランティア・国際看護長期研修

年間約２万件に及ぶ海外での医療支援活動は、日本から参加されるボランティアの皆様によって支えられています。これまで、のべ3,048名の方々が海外の活動地で活躍されてきました。ジャパンハート独自のシステムである、「国際医療短期ボランティア」はメディアでもたびたび特集されるなど、注目度も高く、近年は医療者に加え、一般・学生の方々の参加も増えています。

また医療者の方々にとっては国際貢献に加え、海外の限られた環境のなかで医療活動を行うことで「医師・看護師として自ら考える力」を育む場所としても活用いただいています。

ボランティア参加のべ人数／海外医療活動

（2004～2016年度推移）



社会を巻き込む ジャパンハートの海外短期ボランティア

ジャパンハートの「国際医療短期ボランティア」は、「最短２日から、語学・キャリア不問」で医療者に限らず社会人、学生、親子で参加可能な新しい国際貢献のカタチです。現地では見学にとどまらず、実際の医療活動のお手伝いをしていただくことで、自身の手で行う「貢献・支援」を実感できるボランティア活動です。

2016年度は一定期間ミャンマーでのボランティア受け入れを停止していましたが、カンボジアの新病院開院などから受け入れ期間が広がり、より参加しやすくなりました。

国際医療でわたしの看護を変える 「国際看護長期研修」

国内離島・海外で臨床医療を実践しながら、葛藤やよろこびに日々向き合い、その体験を通して気づく新たな発見と自分の大きな可能性…人生がまるで凝縮されたような１年をジャパンハートの活動地で過ごします。そこでは多様な医療現場で総合的な看護能力を磨き、人種を超えたコミュニケーション、リーダーシップを学びます。研修終了後は皆、海外の病院や離島の診療所など様々な舞台へ旅立っていきます。

皆様との活動

私たちの活動に参加しませんか？

▶海外ボランティアツアー

年10回程、一般・看護師・学生を対象とした海外活動地でのボランティアツアーを実施しています。観光をしながら、活動国の文化に触れ、活動地では、ボランティア体験と共に人々の生活を学びます。スタッフが同行するので、ひとりの参加や海外渡航が不安な方にも大変おすすめです。

▶国内イベント・セミナー

様々なイベントを全国で実施しています。活動の説明や報告を通じて、国際協力への理解を深め、同じ興味を持つ方々との交流の場としています。また、ボランティア参加説明会や講演では、途上国医療の現状、現地の生活、実際に医療活動を行った医療者たちの話を聞くこともできます。

▶海外・国内学生インターンシップ

インターンシップとは、半年から一年程度、海外・国内の活動地で運営の一端を担い、無給で団体に従事しながらNPO の仕事を学ぶ活動形態です。2016年度は計４名が参加しました。この貴重な経験を糧として就職活動に活かす、国際協力の世界に入るなど、その後の進路は様々ですが、皆多くの実りを得て、社会で活躍しています。

photograph by Shimo

▶東京事業局ボランティア・プロボノ

国内外で行う活動の基盤となる業務を行うのが東京事務局です。ここでは、多くの方がボランティア活動をされています。２～３ヶ月に１回、週２回など、ライフスタイルに合わせた参加が可能です。活動内容は、PC 入力からイベント運営など様々です。また翻訳、デザインなど、専門性の高いスキルを活かして「プロボノ」として活躍される方もいます。

活動への支援

様々な形で支援いただけます。

ジャパンハートの活動は、皆様の支援により支えられています。
いただいた寄付金・募金は活動地での医薬品・医療器具等の購入及び活動費として
大切に使用させていただいています。

マンスリー寄付

1日約30円からできる、継続的な活動サポートです。毎月決まった金額を寄付することができます。

▶オンライン決済 / クレジットカード
団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。「毎月、継続的に寄付する」から決済をお願いします。

▶口座からの自動引き落とし
電話、電子メール、団体ホームページ「お問い合わせフォーム」にて口座振替用紙をご請求ください。

1回の寄付

▶オンライン決済 / クレジットカード
団体ホームページ「支援する」ボタンより、「寄付する」ページへ。「今回のみ寄付する」から決済をお願いします。

▶下記口座への振込

お申込み方法

〈ゆうちょ銀行からお振込みの場合〉

銀行名　ゆうちょ銀行
口座名義　特定非営利活動法人　ジャパンハート
記号番号　00910-3-166806

〈他の金融機関よりお振込みの場合〉

銀行名　ゆうちょ銀行
口座名義　トクヒ）ジャパンハート
預金種目　当座
店名　〇九九店（ゼロキュウキュウ店）
口座番号　0166806

当団体は認定NPO法人に認定されているため、ご寄付をいただくと税制上の優遇が受けられます。

《控除の対象とならないもの》
●会費（正会員・賛助会員）　●長期研修参加費　●短期ボランティア現地医療活動費
●イベント参加費　●募金箱への募金・匿名寄付

詳しくは最寄りの税務署へお尋ね下さい。

会員になる

正会員・賛助会員（医療従事者・一般・学生・法人）として、ぜひ私たちの活動をサポートしてください。

会員の特典

1. 活動地への短期ボランティア・研修への参加資格
2. 年次報告書（年1回）、メールマガジン（月1回）等の配布
3. ジャパンハート主催会員限定イベントへのご招待
4. 総会への出席と議決権（正会員のみ）

›法人会員の特典
- 当団体のWebサイト上の「支援団体・企業一覧」への掲載
- オリジナルのスタディツアーなど特別プログラムの企画・実施、社員様参加時の割引制度など

年会費

	正会員	賛助会員
医療従事者	20.000円	18,000円
一　般	10,000円	10,000円
学　生	10,000円	6,000円
法　人	100,000円	60,000円

お申込み方法

電話：東京事務局へお問い合わせください。
インターネット：団体ホームページの「支援する」→「会員になる」よりお申込みください。

特定の事業への寄付

Dream Train（ドリームトレイン）サポーター（マンスリー寄付）

ミャンマーの養育施設「Dream Train」では近年のミャンマー社会情勢の急変により、人件費や物価は高騰し続け、生活費や施設の修繕費等がかさんでいます。また子どもたちの将来を見据えた職業訓練費用も必要になってきています。子どもたちが安心して健康に暮らしていくために、毎月のご寄付をお願いします。サポーター特典として、年に２回、施設の子どもたちからメッセージと半年間の活動報告が届きます。

※詳細はホームページをご覧下さい。

カンボジアの医療人育成「夢の架け橋プロジェクト」支援

ジャパンハートはカンボジアの未来の医療を担っていく学生をサポートしたいと思い、奨学生支援を行っています。貧しくとも医療者になりたいと希望する地方の学生が大学（医学部・看護学部）へ入学し、医師・看護師免許を取得できるようにサポートしています。

カンボジアでは物価の高騰が続いており、現在行っている里親支援だけでは、資金が不足しています。奨学生が安心して勉学に励むことができる環境を維持するため、ご寄付をお願いいたします。

ボランティアとして

医療者、一般、学生の方、親子でも参加できます（海外での活動参加には会員登録が必要）。詳しくは東京事務局までお問い合わせください。

短期で参加２日間～

❶ミャンマー

ザガイン・ワッチェ慈善病院

手術や診察を待つ患者であふれる病院では、外来診察介助、病棟看護ケア介助、医療器具の洗浄の手伝い、患者との交流および現地人スタッフへの日本語教育など、様々な仕事があります。

養育施設 Dream Train

施設での食事作り・掃除・洗濯をスタッフや子どもたちと一緒にお手伝いください。遊んだり、勉強を教えたりと、言葉は通じずとも、子どもたちとの交流が図れます。

❷カンボジア

AAMC / ジャパンハート医療センターで、短期ボランティア医療者が主体となり診療・手術を実施します。洗濯や、宿舎や病院の掃除も皆で行います。より多くの方がスムーズに治療を受けることができるよう、患者の案内や誘導の手伝い、入院患者の方との交流を図ってください。

❸ラオス

現地の病院における外科手術のほかに、医療機関へのアクセスが悪い僻地の巡回診療を行っています。ラオスでは短期ボランティア医療者、現地人医療者が主体となり診療を実施します。また、現地人医師・看護師への指導も行います。

日本国内で参加

東京事務局での運営サポート

宛名書きやパソコン入力作業、資料の発送作業、各種イベントの手伝いなど。

プロボノ支援

広報活動、WEB ツールの運用、翻訳（英語、ミャンマー語、クメール語、ラオス語）、コンピュータシステム構築、印刷物の企画、デザイン、画像編集、レイアウト、イベント・キャンペーンの企画運営、写真や動画撮影、編集など。

すまいるスマイルプロジェクトでの企画サポート

企画から実行までの各種調整、付き添い、しおりやアルバム作成など。

広報活動

▶企業 / 団体との主な取り組み：ごく一部を紹介します

※50音順

Albirex NIIGATA·M

アルビレックス新潟ミャンマー

毎月、養育施設 Dream Train でサッカー教室や練習試合を実施いただき、思いやりや信頼・一生懸命に打ち込む事の楽しさを子どもたちに伝えて下さっています。

キッザニア甲子園

小児がんの子どもを家族を応援するすまいるスマイルプロジェクトで入場料の免除や子どもたちに配慮頂くなど企画へご協力いただいています。

CO·WELL Behind your success

株式会社コウェル

2014年より団体で活用するサーバーをご提供いただいています。団体の支援活動継続に欠かせない広報・バックオフィス業務をご支援いただいています。

シオノギ社会貢献支援会

シオノギ社会貢献支援会

従業員、会社、労働組合が共同運営される支援会で、団体の活動へご賛同下さると共にご寄付により団体の活動をご支援いただきました。

J.S.FOUNDATION

J.S.Foundation

団体活動初期より子どもを救う医療活動にご賛同いただき、ワッチェ慈善病院、AAMC での子どものための医療費や通院費を支援いただいています。

dinos ディノスキッズ&ベビーショップ KIDS&BABY SHOP

株式会社ディノス・セシール

通販サイト dinos キッズ＆ベビー SHOP にて、団体医師のコラム連載で広報協力、心のケア活動を行う幼稚園や養育施設 DreamTrain におもちゃをご寄付くださいました。

Hallmark

株式会社日本ホールマーク

自社製品のグリーティングカード等をご提供いただき、養育施設 Dream Train での誕生日、クリスマス、さらに子ども達の成長を知らせる成長記録カードとして活用させていただきました。

COMPUTER & SOFT ヒロケイ

株式会社ヒロケイ

養育施設 Dream　Train に図書室を建設、さらに IT 技術を学ぶための教室を開催下さり子どもたちの自立支援にもご協力いただいています。

MEDTRONIC FOUNDATION

メドトロニック財団

当財団では、未だ十分な医療が行き届いていない地域における医療アクセス拡大を目指すとともに、世界中の人びとの健やかな生活の実現に貢献するため、メドトロニック社員の社会貢献活動への参加を奨励・支援しています。

▶ Topics

国際ロータリーの皆様からのご支援　※50音順

- 国際ロータリー2710地区グループ１の６クラブ
  ／ミャンマー胎児心音診断装置支援
- 国際ロータリー2750地区山の手西グループ
  ／ミャンマー、ラオス医療機器支援
- 国際ロータリー2660地区高槻東ロータリークラブ、プノンペンロータリークラブ
  ／カンボジア医療機器支援

▶2016年の主なメディア露出

４月　フジテレビ「世界の村で発見！こんなところに日本人」
看護師・川口良子出演 / ラオス

６月　テレビ東京系列「日経スペシャル 未来世紀ジパング」
短期医療ボランティアシステム特集 / カンボジア

９月　NHK 総合「おはよう日本」
病院建設・医療活動 / カンボジア

２月　NHK E テレ「先人たちの底力 知恵泉」
医師・吉岡秀人出演

その他／ NHK　BS１、ニッポン放送、AmebaTV、メディアろっこう、産経新聞、中外日報、みやざき中央新聞　他

会計報告

2016年度　活動計算書

2016年4月1日から2017年3月31日まで　（単位：円）

科目	決算額	前年度決算額
Ⅰ　経常収益		
1　受取会費	20,048,208	17,234,000
2　受取寄附金・資産受贈益・受取役務寄附金※1	186,789,092	173,315,066
3　受取助成金等	9,705,587	6,250,400
4　事業収益	68,938,774	49,173,166
5　その他収益	2,206,111	1,090,432
経常収益計	287,687,772	247,063,064
Ⅱ　経常費用		
1　事業費		
(1) 人件費	70,006,337	77,610,451
(2) その他経費	120,902,833	127,692,678
旅費交通費	17,871,301	22,610,332
学業・子ども支援費	16,981,729	15,616,125
医療支援・医療器具・備品費	14,581,595	18,998,221
減価償却費	12,180,815	6,395,081
消耗品費	9,580,964	4,140,984
広告宣伝費※1	9,317,318	882,601
地代・家賃	8,918,612	7,839,560
その他活動に係る経費	31,470,499	51,209,774
事業費計	190,909,170	205,303,129
2　管理費		
(1) 人件費	12,282,487	12,797,941
(2) その他経費	8,327,619	9,258,494
管理費計	20,610,106	22,056,435
経常費用計	211,519,276	227,359,564
当期経常増減額	76,168,496	19,703,500
Ⅲ　経常外収益		
固定資産売却益（海外車両）	654,872	1,160,161
経常外収益計	654,872	1,160,161
Ⅳ　経常外費用		
固定資産売却損（国内車両）	435,185	-
雑損失	-	45,882
控除対象外消費税等	1,476,862	1,355,801
経常外費用計	1,912,047	1,401,683
税引前当期正味財産増減額	74,911,321	19,461,978
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000
当期正味財産増減額	74,841,321	19,391,978
前期繰越正味財産額	268,623,385	249,231,407
次期繰越正味財産額	343,464,706	268,623,385

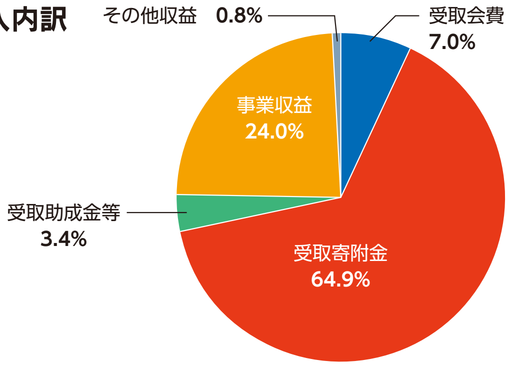
*1 企業から無償提供を受けている広告枠を公正な評価額（約850万円）で受取役務寄附金として計上し、同時に広告宣伝費として同額を計上しています。

2016年度　貸借対照表

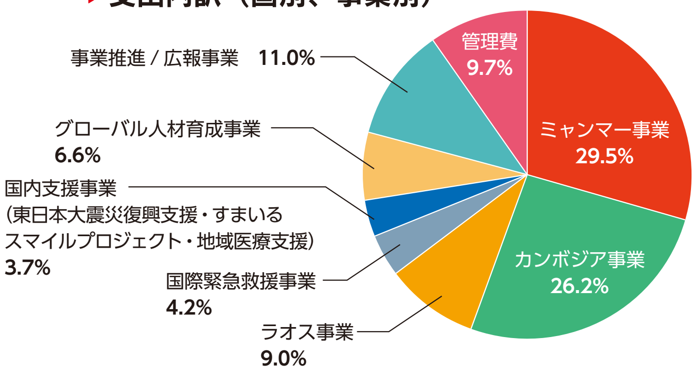
2017年3月31日現在　（単位：円）

科目	決算額
Ⅰ　資産の部	
1　流動資産	
現金預金	203,492,623
棚卸資産	1,033,737
前払費用	2,683,596
その他	3,039,544
流動資産合計	210,249,500
2　固定資産	
土　地	73,712,707
建　物	48,418,858
建物付属設備	3,547,215
工具器具備品	18,148,656
ミャンマー土地賃借権	19,778,675
敷　金	2,409,420
その他	2,181,861
固定資産合計	168,197,392
資産合計	378,446,892
Ⅱ　負債の部	
1　流動負債	
前受金	25,189,332
仮受金	3,816,703
未払金	2,913,194
その他	3,062,957
流動負債合計	34,982,186
負債合計	34,982,186
Ⅲ　正味財産の部	
前期繰越正味財産	268,623,385
当期正味財産増減額	74,841,321
正味財産合計	343,464,706
負債及び正味財産合計	378,446,892

収入内訳



支出内訳（国別、事業別）



特定非営利活動法人 **ジャパンハート**

問い合わせ・資料請求

特定非営利活動法人ジャパンハート 東京事務局
〒110-0016 東京都台東区台東 1-33-6 セントオフィス秋葉原 10 階
TEL. 03-6240-1564　FAX. 03-5818-1610
E-mail：info@japanheart.org　URL：http://www.japanheart.org/

※本書の一部または全部を無断で複写、転載引用することを固く禁じます。